



マイナ救急 令和6年度実証事業

○心肺停止状態から蘇生した事例(一命を取り留めたケース)

年齢・性別:60歳代 男性

通報内容:事業所で同僚が倒れ、心肺停止状態

救急隊到着時の現場の状況:傷病者は勤務する事業所内で心肺停止状態。同僚が通報したものの、傷病者の既往歴や薬剤情報などは把握していなかった。

救急隊の活動内容:救命処置と並行して、マイナ救急により、既往歴で脳梗塞、高血圧、大動脈疾患があることや薬剤情報等を確認し、搬送先医療機関に伝達した。



<マイナ救急の有用性>

傷病者の救命処置と並行して、マイナ救急で既往歴等を確認できたため、既往歴や薬剤情報等を搬送先医療機関に伝えることで、早期に緊急手術を行うことができ、一命を取り留めることができた(傷病者はその後退院し、社会復帰)。

○意識がもうろうとし、意思疎通困難であった事例(一命を取り留めたケース)

年齢・性別:70歳代 男性

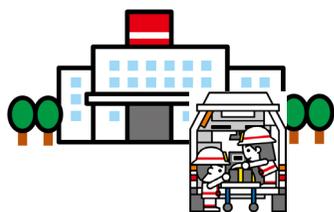
通報内容:足がふらつき、意識もうろうの状態

救急隊到着時の現場の状況:傷病者は意識もうろうの状態であり、意思疎通が困難な状況。

救急隊の活動内容:マイナ救急により確認できた薬剤情報から、消化管出血による貧血を疑い、緊急内視鏡及び緊急輸血可能な医療機関を選定し搬送した。

<マイナ救急の有用性>

マイナ救急を実施することにより、飲んでいる薬が分かり、その薬の効果や症状から病名を推測し、適切な医療機関を選定することができ、早期に緊急手術を行うことで一命を取り留めることができた。また、搬送先の医師からは、「服薬情報を事前に得られたため、緊急オペなどの事前準備ができた」と感嘆された。





マイナ救急 令和6年度実証事業

○救急現場にいた関係者が高齢の夫婦のみだった事例(円滑な病院選定に繋がったケース)

年齢・性別: 90歳代 男性

通報内容: 傷病者の妻から、自宅で夫がうつ伏せで動けない。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者は、うつ伏せ状態のまま動けず、意思の疎通が困難な状態であり、また、通報した妻も、傷病者の病歴や飲んでいるお薬を把握していない状況。

救急隊の活動内容: 自宅にあった傷病者のマイナ保険証から、傷病者の通院履歴や薬剤情報を閲覧し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を選定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。



<マイナ救急の有用性>

高齢の夫婦のみで情報把握が困難な事案であったが、マイナ救急を実施することにより、救急隊が正確な情報を把握し、搬送先医療機関を円滑に選定することができた。

○実家に帰省中で、お薬手帳を所持していなかった事例(円滑な病院選定に繋がったケース)

年齢・性別: 50歳代 女性

通報内容: 帰省先の実家において、食事中に意識を失い、椅子から床に倒れこんでしまった。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者は精神疾患で薬が処方されていたが、帰省中であったためお薬手帳を所持しておらず、飲んでいる薬が分からない状況。

救急隊の活動内容: 傷病者が所持していたマイナ保険証から薬剤情報を確認し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を選定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。

<マイナ救急の有用性>

お薬手帳を所持しておらず、薬剤情報不明のため、搬送先医療機関の調整が難航するおそれがあったが、マイナ救急を実施することにより、薬剤情報を確認することができたため、搬送先は初診の医療機関ではあったが、円滑に搬送先医療機関を選定することができた。





マイナ救急 令和6年度実証事業

○苦しみのため傷病者の説明が不明確だった事例(かかりつけ医療機関への搬送に繋がったケース)

年齢・性別: 60歳代 男性

通報内容: 身体全身のだるさがあり、息苦しさが治まらない。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者の話にまとまりがなく、詳しい症状を聞くことができなかった。かかりつけ医療機関の記憶もあいまいで、具体的な病歴も本人は覚えていなかった。

救急隊の活動内容: 本人からマイナ保険証の提示があり、マイナ救急により、かかりつけ医療機関と薬剤情報を閲覧。薬剤情報から慢性腎不全ということが判明し、かかりつけ医療機関に連絡し、搬送した。



<マイナ救急の有用性>

傷病者が苦しみにより救急隊に口頭で説明できない状況においても、マイナ救急を実施することにより、かかりつけ病院や薬剤情報を確認することができ、円滑にかかりつけの医療機関へ搬送することができた。

○外出先で意識障害を起こした事例(救急隊の適切な応急処置に繋がったケース)

年齢・性別: 60歳代 男性

通報内容: 外出先でふらつき、立ち上がることができない。

救急隊到着時の現場の状況: 傷病者は意識がはっきりしておらず、会話ができない状態であった。

救急隊の活動内容: なぜ意識障害を起こしているか分からない状況であったが、傷病者本人が所持していたマイナ保険証から医療情報を確認したところ、既往歴として糖尿病であることが判明し、ブドウ糖を投与した。搬送中に意識レベルが回復し、医療機関到着時には会話可能な状態まで回復した。



<マイナ救急の有用性>

既往歴から適切な応急処置を実施することができ、搬送先の医療機関に到着したときまでに、会話が可能な状態まで回復した。



マイナ救急 令和6年度実証事業

○自転車で転倒し、外傷を負った事例(速やかな病院連絡に繋がったケース)

年齢・性別:50歳代 男性

通報内容:自転車を運転中に転倒した。

救急隊到着時の現場の状況:生命を脅かす外傷は確認できなかったが、持病など別の要因により転倒した可能性もあるため、既往歴等を確認する必要があった。

救急隊の活動内容:隊長が詳細な全身観察、受傷した部位の観察及び問診を行うのと並行して、別の隊員が持病が無いかどうかマイナ救急により既往歴等を確認。傷病者に直接質問することなく、マイナ救急で既往歴等がないことが確認できたため、速やかに医療機関に連絡した。



<マイナ救急の有用性>

傷病者の観察や問診と並行して、マイナ救急で既往歴等を確認できたため、不必要な質問をせずに、速やかな病院連絡に繋がった。

○意識障害の事例(搬送中にマイナ救急を実施したケース)

年齢・性別:70歳代 男性

通報内容:急に倒れ、意識障害がある。

救急隊到着時の現場の状況:意識障害があり、観察の結果、右半身に麻痺があり、また持病等を聞くも喋ることができない状態であった。

救急隊の活動内容:発症状況、観察所見から脳卒中の可能性が高いと判断。搬送中にマイナ救急により医療情報を取得し、既往歴に心房細動があることが判明し、電話連絡することで早期の治療に繋がった。

<マイナ救急の有用性>

搬送中にマイナ救急を実施することにより、既往歴を確認し医療機関に伝達できたため、医療機関の早期治療に繋がった。





救急隊の声

- 
- **高齢の夫婦のみ**で、**情報収集が困難**だったが、マイナ保険証から情報が取得できた。
 - **外出先の事故**でお薬手帳を所持していなかったが、薬剤情報が分かった。
 - 頭痛の症状が強く**会話が困難**であったため、マイナ保険証から情報を取得することで、**傷病者の負担を軽減**できた。
 - **意識障害**で、情報把握が困難だったが、マイナ救急で既往歴が分かったので、**適切な応急処置**ができた。
 - 意識清明だったため、本人から情報を聴取できたが、マイナ救急で得られた情報と一致していることを確認でき、**情報の正確性の裏付け**ができた。

- 
- ・年齢別で見ると、高齢者の件数が7,134件(62.6%)と、最も多かった。
→引き続き、**高齢者に対する広報が重要**。
 - ・発生場所別で見ると、住宅の件数が8,475件(74.4%)、外出先が2,361件(20.7%)となった。
→実証事業においては、マイナ保険証を準備しやすい住宅でのマイナ救急実施率が高かったが、外出先の事故でも有用性が確認されていることから、**マイナ保険証の携行を呼びかけていくことが重要**。
 - ・意識不明等・意思疎通が困難な場合に情報閲覧した件数は839件(7.4%)。
→特に**意識不明等・意思疎通が困難な場合にはマイナ救急の有用性が高い**ほか、意識清明な事案であっても、傷病者の負担軽減や情報の正確性の裏付けに繋がることが分かった。



傷病者の声

- マイナ保険証で、**緊急時に役立つ**情報が得られるのは、とても良い取組ですね。
- 過去に受診したことがある病院や服用している薬の情報も記録として残るので、緊急時に便利だと感じました。
- マイナ救急については**広報誌**で事前に知っていた。**お薬手帳が見つからず、マイナ保険証が役に立って良かった**
- 糖尿病の持病があり、意識がなくなる可能性もあったので、**持病が伝えられて助かりました。**
- **慌てて、思い出せない**情報もマイナ救急で伝えられるので、助かりました。
- マイナ救急について**ラジオ**で知った。有効活用できるということで、マイナンバーカードを作成したので、実証に協力しました。

病院の声

- 傷病者の氏名、年齢等の特定に要する時間が減り、**診療に重きを置く**ことができた。
- **正確な情報は治療に必須**なので確実に役立ちます。**重複処方の回避にも役立つ**と考えます。
- 飲んでいる薬が事前に分かったので、**緊急オペの事前準備**ができた。
- **意識のない患者の場合、救急隊や家族の情報**が頼り。独居や身寄りのない高齢者患者が増えているので、**事前に情報が分かるのはありがたかった。**



- ・傷病者や病院からも、マイナ救急の有用性の声があった。
- ・傷病者が広報誌やラジオで、実証事業について事前に把握していたため、協力を得やすかった。
→ **広報誌やラジオをはじめ、様々な媒体を活用した広報が必要。**